

## 間質性肺炎患者の歩行後の呼吸困難に 対する座位姿勢の工夫

うえ だ まさ き 樹<sup>1)</sup>      かわ さき ゆう じ 司<sup>2)</sup>      たけ だ けん いち 一<sup>3)</sup>  
 はら だ とも や 也<sup>3)</sup>      さ さ き じゅん いち 一<sup>4)</sup>      すみ ひろ ゆき 行<sup>4)</sup>  
 はた                      こう へい 平<sup>4)</sup>  
 泰                              公                      平

キーワード：間質性肺炎，呼吸困難，対処法，座位姿勢の工夫

### 要 旨

間質性肺炎患者の歩行後の呼吸困難に対して下肢を挙上させた座位姿勢をとることで4名中3名の患者で呼吸困難からの回復の速やかなことを認めた。下肢を挙上させた座位姿勢は静脈環流量を増加させることにより SpO<sub>2</sub>を改善させ、その結果呼吸困難の回復も速やかになることが考えられた。

### はじめに

間質性肺炎患者の運動時に生じる呼吸困難への対応は重要であるが、その対処法は必ずしも明らかではない。我々は歩行後の呼吸困難に対して座位姿勢を工夫することにより呼吸困難からの回復が速やかになる症例を認めたので若干の考察を加えて報告する。

### 対象・方法

対象は本研究の趣旨を十分に説明したのち、同意を得た松江赤十字病院入院中の特発性間質性肺

炎患者4名であった(表1)。この4名においてそれぞれ歩行後、休憩の姿勢として通常の椅子座位(図1)で、SpO<sub>2</sub>、脈拍、そして呼吸困難の程度を1分間隔で調べた。呼吸困難の程度は修正ボルグスケール(表2)を用いて調べた。その後1週間以内に下肢を挙上させた椅子座位(図1)で同様にSpO<sub>2</sub>、脈拍、呼吸困難の程度を調べた。

症例1は鼻カヌラで安静時O<sub>2</sub> 2 L/分、労作時O<sub>2</sub> 3 L/分の処方が行われ、O<sub>2</sub> 2 L/分吸入下の安静時SpO<sub>2</sub>は97%であった。O<sub>2</sub> 3 L/分吸入下にて独歩が50m可能で、50m歩行後に椅子座位、下肢を挙上させた椅子座位でSpO<sub>2</sub>、脈拍、そして呼吸困難の程度を1分間隔で調べた。

症例2は鼻カヌラで安静時O<sub>2</sub> 1 L/分、労作時O<sub>2</sub> 2 L/分の処方が行われ、O<sub>2</sub> 1 L/分吸入下の安静時SpO<sub>2</sub>は98%であった。O<sub>2</sub> 2 L/分吸入下にて

Masaki UEDA et al.

1) 松江市立病院リハビリテーション技術科

2) 鳥取大学地域医療学(兵庫県)

3) 鳥取大学医学部分子制御内科

4) 松江赤十字病院リハビリテーション科

連絡先：〒690-8509 松江市乃白町32番地1